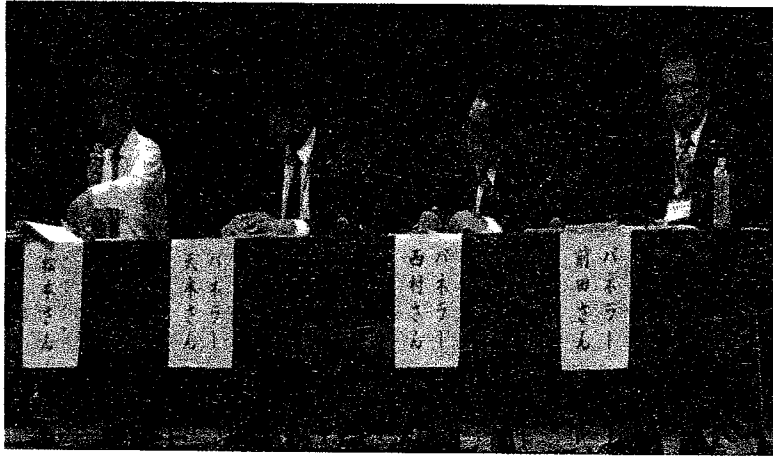


研究大会  
分科会



シンポジウム形式で開催した第1分科会  
鳥栖市民文化会館

# 佐同教だより

## 鳥栖・基山・みやきの地に1000人が集う

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 研究調査棟内  
TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

10月21日(金) 鳥栖市・基山町・みやき町の5会場において、第46回佐賀県人権・同和教育研究大会分科会を開催した。

### 第1分科会

参加者 309人

○一人の行政職員として

天本 貴大さん

(佐賀県地域交流部さが創生推進課)

○思い込みへの気付き

西村 秀昭さん

(江北町教育委員会)

○「孔子の里」にふさわしい人権尊重のまちへ

前田 英文さん

(多久市人権・同和对策課)

### 第2分科会

参加者 206人

○居心地がよい、安心して過ごせる学級をめざして

今村 昇治さん

(鳥栖市立麓小学校)

○自己有用感の高まりをめざして

日巻 宏章さん

(唐津市立第五中学校)

○本校の教育相談の取組と課題

松隈 京子さん

(佐賀県立鳥栖商業高等学校)

### 第3分科会

参加者 144人

○集団の中で子どもたちがつながる人間関係づくり

(佐同教 人間関係づくり研究委員会)

○互いの気持ちをききえて行動し、認め合うことのできる学級づくり

奥平 了証さん

(小城市立桜岡小学校)

○笑顔あふれる“にじいろ”のクラスに

山下 瑞紀さん

(唐津市立長松小学校)

第4分科会

参加者187人

○授業でつなぐ。変化する。

藤原 潤一郎さん

(白石町立福富中学校)

○命・ひびき合い

井上 雅子さん

(嬉野市立嬉野小学校)

○「クラスにジェンダーはないよ」

井手 美保子さん

(佐賀市立鍋島小学校)



学校、行政とバランスよく参加があった第4分科会  
みやき町農村環境改善センター

第5分科会

参加者182人

○認知症になっても安心して暮らせるまちづくり

黒川 憲一さん

(伊万里地区認知症の人とその家族の会)

川内 晶子さん

(伊万里市地域包括支援センター)

○自分らしく生きる”こと”のできる社会に

原 亮さん

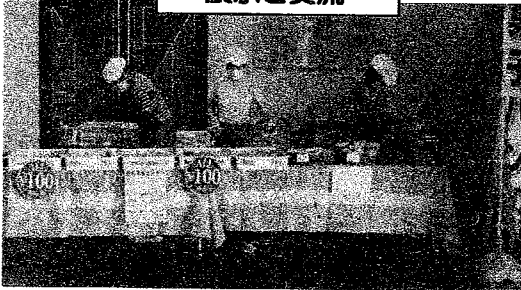
(佐賀LGBT支援団体A O \* A Q U A)

【講演】“人権が気になる時代”を考える

吉岡 剛彦さん

(佐賀大学教育学部准教授)

展示と交流



残された課題

- ☆ 「寝た子を起すな論」を乗り越えていくためには学習を積み重ねていくこと、多くの人に学びを届けていくことが必要である。
- ☆ 人権啓発のベースにあるのは一人ひとりの行政職員の意欲や認識であり、そのような人材を育てていく庁内研修の充実が急務である。
- ☆ 小中高における一貫した進路保障の視点で子どもたちの指導や支援の在り方を探る議論を報告内容と関連づけながら、さらに深めていく必要がある。
- ☆ 討議課題をもっと明確に示し、学びのまとめにも報告内容から具体的な課題に結びつける工夫が必要である。
- ☆ 参加者が多くなり、必ずしも実践や認識の程度が同じではないので深まりに欠けるといふことがある。基本的事項についても初めて聞くという参加者も多く、基礎講座的なものを開くなどの対策が必要ではないか。
- ☆ 行政からの参加者も多くなり、レポートや協議内容についても行政と連携し、行政にも対応できるものにしていく必要がある。
- ☆ 社会の変化とともに人権問題も大きく変化している今、人権尊重の視点を見失うことなく、新たな人権課題について学習し、理解していくことの必要性、研修の機会を得ることの重要性を再確認する必要がある。
- ☆ NPOと学校、その他の組織や機関との連携を進める工夫や仕組みが必要であり、企業からの発信も積極的に仕組んでいく必要がある。
- ☆ 人権のまちづくりの学びのなかに部落問題の解消という視点をしっかりと位置づけていく必要がある。

# 佐賀県人権保育研究集会

10月30日(日) 佐賀女子短期大学

## ○実践報告

『つくしんぼ』で学んだこと

つくしんぼ 保育・教育を本音で語る会

## ○特別講演

「人権保育と私」

保育・子育てアドバイザー

(元高槻市立保育所 所長) 森内 桂子さん



つくしんぼの会の皆さん



経験に基づいた話をされた森内桂子さん

つくしんぼの会は、幼稚園、保育園、小学校などの所属、校種を超えて本音で語り合う会を立ちあげて8年が経過。その中で学び、感じたことの実践報告があった。また、特別講演では「人権保育と私」の演題で保育・子育てアドバイザーの森内桂子さんから「自身の生い立ちや長い保育士経験に基づいた人権保育の重要性、保護者との関係の大切さ等」についての話があった。

参加者の感想より(一部抜粋)

### 【実践報告に関して】『つくしんぼの会』

○教師の資質、人権感覚、教育の意義と意識、実践力を高めていかなければ、子どもの人権は守れないと思った。

○保育の中で、どうかなあ…と思っていたことがあったので参考になった。

○私の保育は、押しつけになっていないか、本当にその子のためになっているのか考えようと思った。

○いくら子ども主体の保育をめざしても自分に余裕がないと、「させる」保育になってしまうような…と思った。

○【特別講演に関して】「森内 桂子さん」

○人権保育の原点を伺った思いだった。子どもにも自己肯定感があることをその時々に見直したいと思った。

○学級の子どもたちを思い浮かべながら聞いた。気になる子どもへの対応、親への働きかけ等これから考えて取り組んでいきたいと思った。

○教職員・保護者・地域の関係も大切だということを再認識させてもらった。

○「人を尊敬し合う関係を築く力」を育てる教育の実践の素晴らしさを共有できてよかった。

○「人を尊敬し合う関係を築く力」を育てる教育の実践の素晴らしさを共有できてよかった。

# 佐同教 第1回実践交流会

1月9日(火) 佐賀市文化会館

## ○テーマ

「差別事象の課題を克服するための取組」

## ○発表内容

「人権学習・部落問題学習を通して

どのように子どもたちをつないで  
いけばいいのか」

「部落問題学習や「青江小宣言」の

授業実践を通して」

## ○発表者

清水 昌和さん

(大分県佐伯市立上入津小学校 教諭)



総参加者数 170人

予想以上の参加者があり、机、椅子が足りなくて参加者の皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。

会場は、清水さんと参加者の熱気に包まれ、大いに盛り上がった。

清水さんからは、初めに、「ご自身の吃音について話され、幼少期のさまざまな葛藤や苦労、お母さんが生前、自分を責めていたこと等、自分をさらけ出し、本音で語っていただいた。

教諭として、同和教育と出会われた当初、「遠いところの話だ」「俺には関係ない」と思っていたけれど、地区の方との出会いを通して「自分と向き合えていない」と思い、そこが変わり目となられたことを話された。

不登校の子どもの家庭訪問での体験談も印象的だった。一日三回の家庭訪問をしても会ってもくれないA子さんに「言いたくても言えんのだよ」と言われ、「自分のことを語らずにコミュニケーションが取れるわけがない」と思い、「自分を語りたい」と思うようになられたようだ。

次に、前任校である、津久見市立青江小学校で六年生を担任された際の実践を報告された。人権学習・部落問題学習を学級づくりの中心に据え、年間計画を作成し、見通しを

もって取り組まれていた。

年間計画にも工夫が多く、縦軸に古代から現代までの時代、横軸に社会科学や道徳、学級活動、教科等を示すことで、各教科等が相互に連携した構成となっていた。この計画を見れば、学習活動やねらい、部落史に関わる内容等もすぐわかるようになっており、参加者からも多くの関心が寄せられた。

また、部落問題学習については、明治・大正期の「解放令」から「水平社宣言」に至るまでの指導の要旨を話していただいた。「水平社宣言」を読み解く中で、子どもたち自身の生き方や学級・学年のあり様と西光万吉の生き様を重ねながら考え、自分たちの言葉で「青江小宣言」を作り上げていった実践を報告された。

交流会後のアンケートでは、「部落史、部落問題学習を通して、いじめや暴力がある学校を立て直した内容に、どこの学校でも起こりうる課題を解決できる手立てを教えてもらえた」や「青江小版の水平社宣言は『すごい！』と圧倒された。宣言の中に子どもたち一人ひとりの思い、これからの決意が満ち満ちていて、感動した」等の感想がたくさんあった。